

元 SKE48 の矢方美紀さんが闘う AYA 世代のがん

気づかぬまま進行 5 年生存率は改善

アイドルグループ「SKE48」の元メンバーで、タレントの矢方美紀さん（34）は、25 歳でステージⅢa の乳がんと診断され、左乳房全摘出術などに加え、抗がん剤と放射線治療を受けました。現在、AYA（アヤ）世代（思春期・若年成人）がんのサバイバーとして活躍しています。ユーチューバーの「寝り子」さん（33）は、2025 年 5 月にステージⅣの大腸がんを診断され、現在、抗がん剤治療を受けて闘病中です。

AYA 世代は 15 歳から 39 歳までの年齢層を指します。就学から就労、結婚、子育てとライフステージが大きく変化する年代で、この世代のがん患者には、他の世代にはない特有の支援が必要になります。

問題は最近、この AYA 世代を含め、若い世代のがんが増加していることです。どんながんが増え、その要因は为什么呢。

35 歳で小太りの女性 A さんは、2 カ月ほど前に同僚から顔色が悪いと言われました。近くのクリニックで血液検査をすると貧血があり、造血剤を処方されました。1 週間後、強い腹痛があり、総合病院の救急を受診しました。CRP 値など炎症反応が高く、腹部単純 CT で上行結腸（盲腸のすぐ上の大腸）の腸壁が肥厚しています。

消化器内科を紹介され、大腸内視鏡検査を受けると、全周性の狭窄（きょうさく）を伴う 7 センチの上行結腸がんを診断されました。幸い造影 CT 検査で転移はありません。腸が閉塞（へいそく）気味のため緊急入院し、ロボット支援手術を受けました。術後、病期はステージⅢb で、半年間の補助化学療法（予防的抗がん剤治療）を受けるよう勧められました。

最新の疫学研究によると、今世紀に入り日本や欧米など先進国で、20 歳から 50 歳未満までの若年発症のがんが増加しています。世界全体では、若年発症がんの罹患（りかん）率は女性で毎年 2%、男性で 1% 弱ずつ増えています。

女性では甲状腺がん、乳がん、大腸がん、子宮体がん、子宮頸（けい）がんの罹患率が、男性では甲状腺がん、腎臓がん、精巣がん、前立腺がん、大腸がんが増加しています。子宮体がんは大腸がんは罹患率に加え、死亡率も増加していま

す。

もともと AYA 世代には、女性に多い乳がん、甲状腺がん、子宮頸がんや、男性の精巣がんが相対的に多いのですが、これらがさらに増加しています。

この世代のがんの特徴として、典型的ながんの初期症状がないことです。検診が義務化されていない世代でもあり、発見が遅れ、進行して倦怠（けんたい）感、顔色の悪さ、体重減少、発熱などの全身症状で見つかります。

さらに、若年発症がんは悪性度が高く、予後不良になる因子を多く認めます。たとえば、乳がんでは、予後の悪いトリプルネガティブ乳がんが相対的に多くなっています。

若年がんが増加している正確な原因は分かっていません。ただ、初潮が早く、出産が高齢化した先進国で、乳がんや子宮体がんなどホルモンが関係するがんが増加しています。肥満は若年発症がん増加の要因の一つです。大腸がんでは腸内細菌叢（そう）（腸内フローラ）の変化も関係しているようです。

若年発症がんの予後は、がん腫により異なるものの、全体で 5 年相対生存率は 80%以上に改善しています。若年のがんサバイバーが注意すべきは 2 次がんで、一般の人より 2 倍ほど新たにがんを発症するリスクが高いことが知られています。